2132
44

新著

契情實八卷

2132
44

楚登之
美津
自画

次ら〻り秋乃いまのゝ色かとる遠近
窓よ畳とくゝたちれぬ乃滝しら絲
雖と流るゝちぐさもんと。ふれから。
ちゝ丈夫の長きうちゝ。ぱぱどけと寸
解くゝかゝりあゝ書る意だかし。されば酒
飲なよあゝたしゝ。極まにちゝだあん
傷。手ふゝ流ゝと濕よがしと乞仕るなぶ。
元ゝり鄙のまゝ待ぶ。その風流をづら

る屋敷を嫌し給れども。そこらの
ざらしくわどもよ。拾ひ
清ぐりこもんぐりと思へども。いづれ
そうして。そこらんも。準縄なりしまる。
見つあくん。角やいまをとしまの。
さしはうり沈れる。田舎人魚籠が銀
ありし。堺情貴虎の毫とおあり。
吉俗弾にぬやしく。鎌ば人をしてこれ
を清しもんぶ。梁の巣をも起して恨が如く

く鎌がごく。陰りかく消るうめし。歳
芸ふも又うるる。原の印あるや。ようきとの
皮乃手よ作編とたまうう。岩らめきれ
及ぶごさるのあらねども。えばし虎の巻乃
ちうらを働うるく。ようを通くさの一本
をつぎきり。虎のまきれめ。ぬれ
ぜり。実よ声れ本の粮梁しく消つ屋し。
手さ乃作中乃濕。あのい屋濕ふ義る
よいくあるべうず。法ふしをしく罪

をゆるしあく

井の裏ノ　楚見笑津述

ざれ狂歌綱目

○定

迷の冨は
京慕の一筋
積るもよし
あぐるみも
潟田の為
濡るる袖も

○才二

都への言伝
つうしのうね
ひろう苦し
さてハ睦云

○方三

○歌仙

友禅ちゝ　庭の水仙
丈と知るる　丸メもぬぐへ

○歌仙

佛の利益も　無ぶさの一枕
実と宝と　花嬬ぐも後

以上

當世ぢり紙巻

歌

井之喪　梦覺英津。著

○人ハ謂古しへむさしゆくの月ハ山もあさうあ
をいおいで。本あしじいあるふるとむくるとぶくり
せしもいんのはるうらうの人の住居のかさなりて。今ハ
家ようむるめて家まるかやらくらうる首を回い
して西をのぞめバ名ふしあふこまよやくくる富士の

山嶂をとしてそれ、まむりよむねをこぶするの高ぐさもいろくよ。赤のうちをぐしらがぶ
弱くるもの、さあらぬ。俗の漢をくる奏あを包めく。房絵のあまたるかよ白雪の上よ連れう。家イ
丑寅の方よあうてもつの紛世界あり。金ふる
墨ともこうからとも黄ぐみしら金八風の家乃
蕊うとよ。巻八拾る遊客のうふ高じもくく
よ。あらひ思ふごとよ赤のうてるとよ新ふを
あうとこ。ろも人扱ふく紙うきつくろいうれくく
大門をくぐれば。牡丹芙蓉もたつしのうれめハ。三

千ゑあまりて。いつれあやめとさきそうらい。唐焚
の番八弱くくうして羅山のむりしよ仏ふう。家よ
優迂宮よ花嬬ふ色男あう。ふちねうふ
名八号くく和ちん。年八十九のうすもよ娶ゆく
うよして眉清く。ものくく撓月のうすぐりうとよ。
ものこし。ちつとうとして云ふきくく愛敬
あくく情ふうくく呂風月を友としてものえうハ
ちうちんうとうふしく月の姿ふくくむきやすき
をおしむ。ちうるよよ八の秋のふうふ
さそれく。かの色墨の金盛くく漁釣の花燒ハいき

志ゝび。苦つくし。筆をすて揚屋のそしらう。えらう
げくりめでいもせ門。のもも咲門がたがいよ今宵
おふみ屋の閉ぢ。ぢでおうふるぶこのうで花嬬は
風のこちとい〳〵。ぐかりそあよ井ふしつるよ。
とろ〳〵子和の志るし。おく。田ハあふれぬ。の内。仮さき
の稚仲がかいぐしまあつらいも早変あるやうよやまわし
くらふハあとハ稚仲よ。そのあハ堀の内
の厄除初帰しとんぐし。れなのやまいを祝らんと。
吸ぐかけくいとざ行
花嬬 コレ稚仲ゑ度ゝもらうをもらいてこい 稚仲 ハイ

それでも初ひとりで。おさびしうござり
やせうよ 色 さいくから。いつてきてくりや。
ふうつけくてぢし出ます。 ごん ぢれやいつてきんじあそう
ろ とときまでよ。そうのやまいをようくやまろーく。
やうけごろのうけみろもぞいかろくとぢきめサア。そん
ありろろ。ぢ姫さまよ。やいつてきんじますから。
うぜよあるうり。姫ばし。ますかぢさうり
いつてきんじませうら。ごふぢうでも
マア。わしぢまんく。おいでかさり。ゆ色と門あて
いてきさ
ゆく

ぶよくまゝくれんぶのたさるゆてもあそやぎハ
ゆすとあ風よあびくあふいもしいぶ川ぶものんぐ
うつるいろるとあるあくぶこ京みハ何とあふから
のそあ。ものすもすぶーらつゆのうゆ
ひのとともよろうきそぬうりとあぐさく
あやのそのろあしくみハいゝあらんしあまろ
のきつあるハ何ゆとくんうそるさこてう
ラスリのあぐちあイ。ゆくゆあこ京ゆとあ急
のまゝしきりゆくらず。あさな郷かふきう。

ろきあゝがきやゝあるぐさきるふもまり
てそれよがしとまちがあるかどぐらから
[仮名] 全まあうさんくとよ [注] 松さんふうく
さそくんおさちくのう。いろそきくーかつよ
[松] ぞあぐゝふハきとーもいるかねそーく
あこさんハきアやんう [注] イ、エおくら [仮名] ハア
ぶあうきそるとくふ。とまあうさんくとよ
れてくち [注] あこそきんぐさあうつくそくど。
サアおきいり [仮名] まんぷんぷのくさるうく

[illegible]さん。とてもよいのもかうもあしう
ね 【左】 あいさ 【松】 きてごらの百ぱぐぬぬ
きてうりいがこざんハ 【左】 ゑまさます 【吉】
金すハ 【左】 さちりたぐやせん 【又】 そりやマア
ちういねエ。そてあんとそ 【左】 ゑ[illegible]ぬ
ちしがこんどのぐらいとくものハふくん
おのつてきやうら 【松】 でこくぐやきぐ
ありやきう 【左】 それぐかう。えーくおいえ
すもあるれば。そてそれがくきよ 【又】 あうう

やきう 【左】 こてきりをのみくもきもづーく
てめんどくりあり。ゑいていふぐくあるで
ハあいよ 【吉】 どレきんあら。ゑくりをあつてめて
ぐまてえのちちりんるやとあし。サアあつてまりく
きりをあてくめてきりをあし。サアあつてまりく
ら。のみあ 【左】 松さんあこさんやぐあ繰で
このやきるきんちよしてそうんあきハ 【松】 ナシ
マア。そんあぐりかやをいとずとのんでちやく
よくあるぐくハ子 【又】 コラ[illegible]ぐやうさんぐの
ぐやきこそうよ。あぐきんこうもよあれ

ばくるま 全 ちゃうの魚 ぐさまーー
天 そもそもこの初めこれはぐいう
ことぐさねば 全 ぐいうけう
もしやよきさんばがうしたぐさ。といはまくども今
もうらんとぐさまて ぐさいうことでもあるねども。
これそうとゆよてらん奇 ちゃりのみてしこ
うるやまんのそくとづくふくめ
ろうん エウくいんかいうんけれ
ばかをぐしいやう。ちゃういやう。そてこれ
うのやういうぐこいといてよすうきれば
ぐやうきのこをろてやりとうれども又あん

じゃしぐうとひやくさだも出やう
うと思ふかやてよぐちゃうている。といるぐらほうう
きぐうみあしだちのうとて 天 きうしているよとハいうものく
うきまやうさん。おんばおいらんぐそのやうよ
してうれとくもそとう世ちのみのうへ
よめうとよきるとちぐうのつまり。弟のみる
あうぬやとあうふかれすうきやくうう
をりみ。うまいきしてからおいらんぐうのの
まうとうんぐうをさぐてかうのえんぐづさ。

いのちをながいのうてさいごのうらを今ぢめて。きんなきてさらうめしい。
きてとりとりいわうそうぞそんなゆごつの
あれあらばこふすでしてられこのかうそり謙ろ
きんごつう
そのしんごつハのうふで。こそ手の尾ざしさいを
よくるいの意。こがいよ人をあほれわかて。うそ
すくも母えよのこるるくもつこをかとし
わかるるるーー合のそのうれーさの気思ハ何よ

つまんおごうれんつるるるんのつこかづら
神ごうけよりきんごつさ。コこらふわごんぐ
いるものをもしやうあきごよるあつこら。
ともぐーちらとそくとらんなきらし
十が九つあぐーあ。メべのけむりとなる
さらん。すごうついそもいさいと思こども。
きるまふごあのよのあらハあすのいのち
ハちられば。しもものすごあつこ時。痛ても
治よかこらぬる。うそのことよふこうして。

ワるくしがびやうぶさきをあいらんよりぐるくさうやそこの舟をぶつけてらんぶよとさくしぶすふみもるぐるいぶそんたのあるむくるくるおとらくしてしまざしい。

[illegible]古が半肥をうつるゆだもうくるらんふるうはちぶらく陸をあがし。

[illegible]コリくるくるまるくるくるんぶるくるくるはあらぬうりだんるはぶきるるぶけやせう。ずぶぶんくたでもひうぬやうるもあひとうもうりけるくいあるさいよびるるぐもちるるるるイヤワるくしはまあけるませうとくちあぶるぶ[illegible]モウあるくるうるるるくるくるぶるくるくるぶるくるくるのやうるるぶちらを角てるるるのハ花でもるすれハいるくしませんる[illegible]あんのマアるんおるもぐるくるるぬものさふるくくくくくくくるるるるるるるるるくするものを[illegible]るくるくるくる

ゆきそうらい。まことはるめいりやせう 医 ナゼヘ
あこさん。そりやアマアあんのるざこ 医 ナニサ又
あすこまゆきからとんのうちこいあられをかもしいえつれざち
ゆうゆうあとよかもとこ 撥 さぞあさびしくあるまらんと
まうやくくらうさうハイおくすりをうつてまいりやす。
さぞおさびしうござりましやうと 医 イヤ
いやをかくゆとあこうがきていくから 撥 ハイ
それいてこよおござりまし
かるとこうしちるアハゆきのこちのあの

まも。分のあらうしだのこちして。女の
あゆみちらるも。拔よりて陽う
こまる

を 医 よ
ろうアハさぞるすでさびかる
ろう 撥 りあハあこ帝さあとかきあらお
いであまれまこくでござります
を 医 アそれいよろくのう
るを勢あみのあやんどらどうまも
まちねこ。をこまやう御前をあこて。

ひとよよりうさこいゆるハ。百とせ二のき
づのすち。ゑ掾者もをくとて。七字のせう
ねんすみワる。ゑのき。あらし。ゑもやさく。ゑげ
ゑ目をうけゝくも。ゑみぶをとゆる。ゑやぐら。
げよぎんちゝのちゝをれぬづし

第二

○ちゝうゝ一ゑのゑうさを。ゑめやれバをとし

もゑくゝ大門よりゑいし。屋のむきのてんゑ
ゑけハゑ者かゝすのあしゆすめうや。ゑ屋
ふゑ手ハ。尾ゑが赤の袖のうゼ。ゑしまれ
ゑる袖をゑて。ゑようゑれしぎよそぐもを。
若ゑし。ゑふゑのいろぶゑのゑらハしをて。変
めさワるをみのをら。第屋よつらゑるを
すぐれも。すぐれよりよゑ色ゑの。ゑゑさのちぎり
をうるゑゑも。ゑをゑが。ゑ恵よ。萩のをや。ゑば
ゑびうんよをゑも。げよいろぶをの金生し

宮板 コレクれもきんおいらんハぞしぐよ用ぐ
あるかりてるあ一手文をふいうてらんを 白 今
をふそてきいしくからショヤ月もんしおい
らんぐ 板 ドレ
こをを学ッハ色をきまがこをハ差さどを。
きぐくもかるるのをを。角ハみちるよをあへ
も何ぐらるくあゆみる。あをまるのをこじ
をんせ。あぐるさをのをほらしきも。ぐよあふ
みるのあげぐしきあり

きき 板 きんようおいでもんしくきやくし
きんハぐきいしくへいくびら舟をあげもふ
きいしくられぐ。きつぐりおいでるんきよ きき
サアそのこぐきやしくしぐ。きうしくやや
るるかうがいをねバうらぬ花きまきんハ。
この中ハ大ぐ。きう さ きき きいびつう ハ 三 花 場
きんハ姫ているんすく 板 それでもいけを色場
きんハおめくのこをを。をすれやをん。きのふ屋
いきやしくあり。コをもりきんよおめくマア。この

ゆうはんちろうとしてそれるのハ。ゆんを
うれしくおもはれど。老生ふぜいの業のあら
いなるゆづらいもるくゝちゝ。あゝこのくも
ゆべのあめとおもふ。それもいのちハおし
まねど。ゆんゝひとりのさかづきハ。あの時は
ちゑんとひと間。夢でおもひてもあてから。死
さいゆゝづゝよのねゞい。これがひとゝのよみじ
のさきゝ 図 ゝちゝゝおもゞすおもゞ
をゞよあゆゝもゝ モシ 松さん
をふゝをゝまゝ。ゝんゞゝゝゝ

きのびつ。はがあとをぶあいなのねあいとて
んぐ。弟よきさみ。こしよりとしきるも。
むらしとそれぬ。そろ。いそぐ。ねどおさこうい
しも。このあとやよきてゐれば。ものもつげる。
ゆくへ。がうつむいてゐるあうまをまてゐんてる
あそこ。どゆくあいろそれど。花まう
がやまひよゆへ。ハ。弟のきのますかどみ。ねは
よさ。こむ。はのつく。よく。あるからるれば。
どうそとふさいどる

[illegible] おいらん。あこさんらさきんしこのの
ちうよあまりおふさきんとふいち
どよそそそのきるんしてこきまさん
のびやし。さがよくでもちくハすまいしマア
ちつと。ゆしでもして。おまあこれるんしなる
おこ三マアよくをつけてられるんしこおこ
さんよくおいでるんしこ。いくこびものを
そうこそ。さそうだんまりのまくごもの。
まいしてえりやアあくうきんこきあきんの

ゆうがさきへ　ねくらう　つくしうさきのと
きゝぬすんとゝをもたてゝ　ヤはらちもてこけず　図　ちんでおすくぬめ
へさんのゆうのおうしかことをいうんとものゝ
ハありいすまい　図　アイさ　図　ちうとすくて　松さん
のゆうよおくうしくして　居ちんしか　図　コフ
ハさんとさらよ　図　松さん　あんかむうな
ゆとうるんを人よ　おうまひちんすか　松　そにけ　うと
ハらて　図　ちんをさんてれ　てれさやうすがありやう
図　てれくとおくうんをうら　宮られふられ

いまとゝハあざりいやん　切　あとさんおをかがあき
いしくね　切　コサあこさん　いまらきあくさんが
をかしのさいちう　図　そんちらをかしく
切　サアおいらんきうん　しそれでこで　ゴ人の
ハんがつもやてられハしめられどそれぐも
あれハこれをどよ　見ハうんざハいいんぞ
とふとゝ　宮　ハちさんあをさんうあわ出ちんくく
図　ちもまんぞく一ゆ　ろどやまくさの　宮　モウ
とをくさいさうとあ　すいしこがよんどうあい

男からあるいしくからう。ぞふぞうんにんしく
おうんあんし 松アハうくをかしまぎやまぐ
いりくおらねくぞおいらんだらいのいんぞ
やらくくぶれくかれてもおめくがうはは
わすれぬんと。注をちらしるうときあうが
まうさ。みればくもぐ鄙しくあり。コレ花
きやくくん。きやうよきをとのとくしてあうら
ぬもの。そのうふいの姫ぐ。死あるものうれう
ハぞふあぞきやくよくあいくいさくとひとう

よあそびよけさおめくよあんくきのうさ
よ。つもうくしあいまらのうるぬ。ぬ
とくくくりや。そふハいうてまこのびあうさ。う
うようくるるまぐやらう。ふそマアこの身を
きいくい人よそぐけてしこおいらんくいやでも
ひとあうそうんお
こんばくうもうれそぐ。おくきをしのぶ
そのうさ。人のうるめもそぐうのうてあう
わるあそぐうや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ 板 伝のるもあく・ぶらうとしても好みぶ。
四ちゃといくこと・ぞんハよりぷぞくしい
ゑ 浪 きけバ又もつ一二五びつくり・おまぢ りふうらハろうの
うちのあそしさんあさくさぞらの金銭ん
さんへぐんかけこ・ぞぞよくしてあげさん
ぞ とあひのちゃ
ままうみざさを
四ひうこちらし・でこのうくハ井より
おこと分をゆまうも・ふくさりちぎり
をじおそふの・ものうげよりもぞんまゆ

さこもあたりみも一せうのおりん出よりまく・
やまくちくこと分もしくども・こうの
地たの分をゆ兵へて・伝のうらきくさふ
あらずんぞ吹しのいすみふ・月日を
ゆあろう・小分のつくあそさんあ
ぐしこと・いそぞうのやうな
ぶうくし
ゆ

図ナゼのふうんなるようなしいまをきてよと
いしとにふらられげきやくのうね図とふ
ととと ぞうとるものうね かよはくりやす
うらちようと一年ういてやんな図ぞけてきく
おうんなんすなうふみハあげうふあぞりじす
おめくえんうんなら 全ときやう きんよはでうく
うふいりうく おうんなんし いうてうさーや
あんぞうく おりいまから ぞふでをやくうく
なりうく おなんしうあうねへ きとうふいく

がてしうねぶいちにちあうんでいてきく
もみとものこ秋のようなでもあります 毎ハあてからも
あげもあういきう きんあうあアすみ
なんし

ととゆくあるものすぐ うとてようつふ 蒙
じやのうもり まうようアさき 柳のこ
ハ春の凡あアさとうふる きのびんづらかアき
く 紅彩よりてあふ 接ぐほの みあアうあるは
なぶひらさし法蒙よ あーこうこあをふくむ

尋磨筆

ぢ〻〻

第三

○夜まうの食物の音ハ。でみ〻ゑんまひくき。
ゆふ〻のちやしの音ハ。ぢさくさの音ぢやしよ
和す。こゝろとよひハもく〻ゑもたれく〻しめの
まと〻ゑる。月う〻ハくるゐざ〻〻のさゞぎ。
夜もふかく〻ちるわかし〻
三と
ちゝぢよ　あときんる。おいらんのおいるんす。
そんあらうの舟を。ぢめでぢけておらんゐん
しとき　又　ぢけアやせう。わちさんるゐらえん〻
けうゆきを　初　ムヽきやくくきあうさんう
舟をぢけてやんな　図　吞込く〻
若うまづさをふ〻こうよあきめいるゐをづけて
ちちぢる。あとよのうしわちゐ。ゐよいい
こゝみあさんけのまくら。ゐよハやうぢうの中ハ。
うるしにうのやくこゝとあうしハゐゐ
秀の。あさくきだらのうんぢゐんふうきちいの

ゑりをば。さるめしう所のさまもごさ。ゑのよ
中よりあんぐさんぐ。めくとくいくる。ゑのついく。
ありしくらしてゑくとゐくぶうれしかるのさく
まじも。ゑくりふるのきめごくるゐ
ほくとくてゐんさねエ 五九 きるるさんちつと
おきゐしゐんしゐる 五 イエ ねづゐききてゐそぎり
何ゐいらんふと 五九 ゐさんゐかをしいをしサア
身をくくまほる
もけとくちくおとんゐんし 五 イヤユウ 敎

うら接のゆうゐれど。あの人多ハ陽田めゐ
よ毀きるうのう 五九 ゐんでおすくそんゐマア
ゐ。ゐくしゆゐんでおすうきいせん結とゐいし
ソレヨ。あの梅ゐきんのきゐしよゐいしくぶ
とうつゐくひゆしよ。 五 てめくそのゐくぶハ 五九 ゐくて
ゐくぶをほうちうし
れしとゐひゐぐら。
くらゐゐぐはゐく 五九 よしふゐいをくそくんの
ゐがゐきゐくかういをのく 五 きゐよかける
のゐやアねいれど。陽田といくりや居くら。

ぶく（ふい）あみぐのそのワけを。ちゃ。ちゃ。ちゃ。て
きうもあるよ　元　ようこそ。やあの。ぼうさん。情（あれ）
ろうおぐりいきうら　板　ちんあらよ。しく。
イヤ。ちゃがうと。いうよつけく。おいらんハさで
ちゃ。ちゃ。さんの。ちゃが。ちゃく。ちゃ。ちゃ。モウく
いぢらしいやうぐ。アー。ほうと。ちゃと。ゆって。さら
セりやアいうれど　元　イヤ。それぐつてもマア
おめく。さんと。ていとハぐいく。ちんぐ
ありいきうして。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。て

ちらんあんすら　板　十二　元　イヤ。こく。ちんぐう
とちんぐう。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
たぐおいらんの。ちゃ。ぐう。いつて。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
つらいていしが。おさよ。ぐも。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
きうく　板　コレ。ぐ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
きうく。ほい。サアちんあらあやまつて。ちゃ。
めよぐうと　元　おいとちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
えおくれが　元　ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
とそぐよありあおちゃるよ
てちんぐうちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。
よ。ちんぐう。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。ちゃ。

せんあらいそてあること。叱てゐりともやさ
んせ。そのもせずしてゆみのおとだけ
しや地のうへはやひ。それはけしきあしてゐる
いる。あうしてゐるもやこいすす
のふりでおす。まてすこぶるのおうこぶ。
きあしいするふりいせん。とちぶのうちふしてゐし
あうぶは　ときれしが　松　まんこれでもむりでありいきく
松　ホイ　てんぶきうらあうりげて。あれは
まんじりそのでふねエ。とふいくものくらぬは

神よりあるきるくはあひとありばまう
きうぞ。ごるこきよりといあれぶしくあん
ありいぢめてられめいよ　五　あれぞふおりく
あんをおるねつさ。あゼこのきるまきるさねエ
と。ぢるぶひしと　松　しのぶてくりや。いまよあく
ときはけば
のあぶつさハ。篠田のあるぶきつ
さあるこいはやらじとぶさつさ。ぶいよせり
あふ京じのいきじ
れ　松　まんモウくあるまりいこと

が吐しをさうく一トことゞきいとぞうとも
あるさういしし 拓 ナニモウ あゆまるゆハねェた
づゞ。ゐるかりとはあれがん 元 ちとしとだの
をゆもゞこさづくひあづくの。 コレ 拓さん。ワさしゞがちら
からゆまとゐう。
をとちいしくハどれうらでさくらうらみぐ
ちす 拓 よゝやとゝくどもちゆまぬを。うくらのをれさ
おまこゆともにこうと
元 拓さんほんでありいすうモウくいりを
うれしいねェ。さんあらうぞふぞここゆしく。
きくちづうしいアレサおよしあんしいりを

くまをうんくくもゞうぞりいす 拓 サアうれうくゞ
をれくあうゆ。さくさのゆをくゆしてくか
ゝゆ 元 ちづくくちりいをりれゞちゆしい
をう。ワくゝゆ京のゝのものでおゞりいまゞ十年ウ
のくしよかゞゐをれく。この龍うられいし
てきいくくゞゆ。ゆ釈のゆんうくさをれう
つれうゆ拓ゆあうさんめ。うゞゐをれゆんくしをを
ゆへゞくし。をくさうくゆうゆくくゆいくく。
ホニ むうくし吐ゆにくくく

よくよくうるさくもあるかな
へどもさすがあやまりの
そばだつるのぐらい。何と
せうもいろをもづくしの
ずのいらりやうと
夢のねのこの
うちうち

[松] あねはまろうと
こるくるよしいま

[松] 蛍火の用うもあるぞとあら。それも女の分乃
よりあり。何らしのだんとも活よりあげさてどうも
うさやのやあてとらうさん夢ひ寄さすがあやこのん

ちちく。つもりうくるもあしうくし。まざらうせ
どもあげすく。こるるんのやまじうら。やみじるよ
もうふぞんのうつ。そらしてみてきやうぐ思ひ
うねこうをさとをうんあるやく。こそでーしほる
そうりあり

[松] よくくあるぞを
おしーのこのてーしてマアてあく。はまれる。ホフの名ハ

[元] まそれてあるもあんぐす。絵のくのうちまげも
あるくーやこーしそこのくさまし。物の先はいくしも
つまらぬ
りの門ぐ。あうしーしく

[松] みやこよあうしおさ

[元] うくくいくそもと
おもハ
いるうけのかといく

[illegible]
いもねエ。あの[illegible]あめくさん八肉[illegible]亞さんくと
[illegible]ソリ[illegible]ちねハワくつさくさくして肉をあたヲヤ
[illegible]ん[illegible]ひくくくくえんのくえん あめくさんハ[illegible]てくんあ
[illegible]ん[illegible]くくくくく

ふいんぞあらかるふ
ふさつのみとあり
きりくいけてぞふしいさ
あらとあるぬをしのぶ
あらぐさとおしのぶい
わるんおそつさんおつさんのふめ
をぶんくいあんをく 板イヤ 元そんあらつま
のあでもあるじまでぬぐい
わぐりくさ のあるし名をおむそんれいと
ぐりあさ そやくんでもこそ
まるふ金伝の月よ
神のしぐらみをぬのみこむあぐせき
しをぐしぐまで祝の井ふれをず

しよいまいかそあるあまりげのいろあるあ世の
あるんあればうつくさあのうちう
ふるのそのうさよ
板コレサそふあつてぐあるものぐちんと
ぐでものんぐまさあるぐつ 元ありぐふ
おぐりいを 板見ふ
のハつゆーらぐあいそぐーをいこのも
むりをくくもあつくがぐぐうんにん
してうんあ 元そふいつ

ゝるづけのあぐあいすよ。ふくろ
きぐふれて。みの色(いき)ぐらも
おざいす。ぐふりつすりハ
とりゝおうんさやよ。きゝあいま
板ぐゝもきゝハあゝからいまあぐらく
のうち。きんぴゝふ五どゝこれがいんまで
まうていらきいせゝ板サアそれぐゝぐいま
ゝれぐぐふるものゝきゝいてきうやてい
るもあるけれどゝこれをゝうよハあゝあゝ。

てあくうんぐゝ五ふゝずハあるまいとゝく
ゝんものくゝりゞあゝあゝめくゝあとゝだあぐ
りいすゝそんあゝあ糸(キ)のやすまるやゝよ。
ゝゝしがむねをあめくゝのかまゝ(なまてゝうゝい)のゝぐゝふを。
るくもゝゝぐすゝそのまくゝよ。ひぐゝのかゆびをきゝんゝす板ゝくくとゝるゝゝより板ゝゝゝハ
ゝれぐゝまゝぐをきゝてゝあゝ(コヤ)
きゝやまるめんモウゝん中ゝゝ五ゝぐゝけ
ゝんゝゝゝそのうくハ板つゝまずいけてきゝも
よゝ。そのゝゝぐゝゝゝものハ
ゝバしゝ声のひゝゝゝと泣けゝふいつゝゝくハ。

いづるせんをまきものがるゝ人ゝとどめんさう
がうんあん
元 まんじのほんぞうありいすゝ 松 まんじゝ
あらぐ〳〵ぞ〳〵しく〳〵ゝ ゝ元
ゝイ〳〵 ゝりやゝゝアゝゝ
むりおもしんをいく〳〵 ゝゝゝ
しゝゝあいそづゝしも きらしく〳〵ゝ
づゝとゝゝんしく〳〵ゝ ゝれもおくされ
のよう あんおうむくいでおぢりいゝ ゝしく

こゝゝあうつゝさのこゝゝめく〳〵つゝぐるゝうの
ゝゝ ゝゝゝく〳〵 ゝゝゝく〳〵ゝ 松 つゝよ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ ゝゝゝゝゝゝ
元 アイトよ
うね ゴヲリし〳〵

方四

入おのうまハだゝく〳〵めつおゝと初ゝさゝゝ
乃ゝのゝ月のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

四方のくさのもんじんもさそふこゑも
ちくさの野ひのぐるくさぼくさくちしく
あうしくらすもあうれるるくらるまくあるる
花をあうぐ泊のくるまくらんといそぐ秋のみち
しぐるや。こゑの月はほのうあうく。笠ぐうく
まくくちの声きうくふ切くくしく
寂寞くる秋の夜のちんくくるはくるる危滝
乃夏を流しぬ水の流水いあまきまじく九天
銀河のうまるるくう。遠ちの滝はあぶしよ

臥牆紙くるなの声はを近よひぐく。指と
おくくはをかぐふれば。ふ九つの鼓おれや忍
びいくくる。花まうげを通。形をうんとわ。完
けば。名来くくぬ。ぐくくぐ。部屋。あらばちらき
し。れんじの敷よ。猛もやらびあくもせぬ初くう
扉よ。扉林しぐのあくろる。部屋ままれ
くるあくゆと。まくうくしくるなくしよ
ちけぐ。もしや又人くうんと。ちくはく
くくよ。紅くぐくよ。ぐくあいぐのるぬぐへをため

ちちくあげこえバ

図 手ちさ糸の内よりも あさきんら 図 をきまきん 図

まづうよしか 図 あめくいけをあんごとがらふ

ぞうぞく 図 かとうこるもあうゃもんがらふいろ

そありがらふ さどくこびれあさこうこう

図 ナニこれをどよするものをあのらいの

をこいりくこくこく 図 をれぶもいけを 図 ナニ

サマアをれよりやア これとさしぶにこもづさを

らづくしの咲けがあるあるしをのもも

女のあみのあこやさ あはまいぶせこと

をのすきみもみぶれずみ こぶれをあかし

ちぶみふくをきまぐこうもうこう

図 コレをきまきんせけんのこんようふ

りさこうとやいけかれんといやす

うう あんやうよくあうずと 仏と仏

ようちやうをよくあんなさこをの的

はあをびよいうくぶこてと いまかぶに

はくこあこうをこくこ みこのみこています

定 雛花のふんいつらぬよ。あんのマア
いやつらら 又 そんなだらかなをいとぬもの。
イヤでくぶらゆがふけやすすそぐらら。けく
りややそう 定 みそさんそんあらはるよ
そさきやう はあこがゆりゆく。あそよあまそ
をそそそそ。あそぶをそもに甚へねの。美よ
あうそもこい人よ。あいそいろひだそうなる。
花よゆめをむすぶ夢。るくそろでるくそ彩
も作一。夏はのそうてきすそよそよ。ゆん

むしのあはそくそ。あけりれもすぐちよ。
咲けそさきやう ふそりが中をそんきぐす
あくそそもすふさそろぎよありぬをぶいも
せのあうはあへあいの。わあむし 馬あいをぐ。さる
もあそけをあづあのいそぐ。ひうる。あとら
そりそむしよ。夜もそらくそあけてる。
かどよかそやく 雛日のうげそ。
花 ようぶんあまあそるは。えたちはどぎぶんはごそぐ
ござります 定 ふはあきぐめのそいう。をと

いろはぐ 拾 ソリヤア。よろつーしごぞりますど」
おうがいを とごんきけがこころゆるへんじしもうぐろ
とんのつきて。ぞうつうとりゆうぐいさるもぞいのおとこぢーくものー
つらぶりこんやぬてんのじぶりてん。サア わうがいを
そうよしーく とぼんよちゃこんとまきゆうじ。ころをれく
みぐさわいるをいちう かぐみ。そうそうくてさしぐます。
きばらくありくそもかからそれとちらるくふくうの
あーおとぐきゆーハとるあきまー。ちうら 拾天 そうと
あきみのくよくとよぐさをうしろよりかる。 拾天 せじを
ひきひらさ。ふくう
つれどちうちいる。 注 よくーあそうでおいぐ
ぐのぶみこさんゆみぐハあのみきよおつうれ
だつくろく 図 ナニサ 拾 をきゆくさんぞみふ

一四 おめくよあうぬらいいをゆぐハあん
じゆーく 注 ぞうもうらぐうぞーくく
ありませんきうしあきハあさめとやら
ぐ。ぞくふしんもちうくよくで 拾 ごぞう
ゆすう 注 アイサ 図 さいみつくもんぐねェそーく
ゆみべの夕をスるきうくく 注 スんゆーくぐ
いいもかるくびいいをうりもきおぐらきし
ずセ 図 おみきみをふさ。けいやひよまてあし
とはつけきぶぬきぐ ゆまもみぐいもの。

でりうだます。女郎もあるべ 板ナアニまさ
ど人をごまかすハ まべいごらう。ごるくいく
のハうちぐ大ぜほふられるのもぐすするの
もみんなさけちぐ可いからう。さて女郎
ぐだますすとも。こけちハいちづまんどと。
まことをつくすものあらば。十がたつ。ここの さき
ようもじつとざろとのいきじ よるくハ
区 やりあいらだまつてゐるとあくどもこ
サ。ワくしハうぐ。はまんもあまんちま

りくつふあるふられぐ。それもよるくさじて
えりや。みんなまよいの一トすじさ。女郎ハつとめ
と年あけと。金とこけるまるゆ。客ハ女
郎のいろこまとかくまるまるふらと
ハいくものくワくしハ又ぐんぐやこのまるの
こふハまれぐもぐふられぐ。ふつまと。あきら
りあうぐ。区 サアそふふふ
ぎろくぐぬへのうく 区 まれぐらいまふく
ワくしぐことだぐをづくしい 板 そんあらつと

ぶくろのハ、イヤ、まくうアセう 白 あぜへ
又 ちつて来ぶあり アすから 松 ワさしも
いかーよる 白 をんあら又ぢんゑもぢうぐ
ふうりハかくるものあるよひとりくまきやうぐ
ものあへ蛇紋のまざみ数をくう、これも意し
ゝひぐさをふさるおてもこのもぐこさ、たやくよく
ゐるものゐぐぶあんふるふ時けゝと、小豆の皮
をあぐあやれバ凡ゝちちつく 緑黄 の凡路のたん
ざく 同ゝさしざるゝ、ゝみてゑれべものうゝう、

世ゝゐるゐるものゐねバとうさ世ゐれうゐるぐ
ゐぐうゝをゐぐさアゝ、ふみ、ゐぐらの角をせめ
く、むねゝをゐゝのこさゆるまもあぐでうさ世ゝ
ゐうらくバぐるゝやさひゝるゝみさくく、ゑゝい人ゝ
あるれもさず、菊 むむ 元ゝ 元ゝ ぐ ぐ ぐ 元ゝ 元ゝ 元ゝ 元ゝ
ておとしゝびゐくく、ゐるむゝいぐゝ世ゝすする、
ぢゝのアゝれんぐのゐぐひとくく、ゝぐくしのあぐ
凡もゝんくゝをゐけ秋の凡
ゐ又

本文

爰に又ある人のいはく母はよい日あさ日の出さむ
れば、やがて報日のひかりにあたるの雫をあ
びれば、さてのあとしてたびゝ夏で、このよれ
の雫を飲むしるしさえよりまでおぐら
いく、さんかうさめをとらりめで、夢もう
らめしちぐるれて、ふぶきをふほくさらあ尼し。
きのくろかみをきろるしてもんの一枝よいあらね
ども、られて、ほさあおらをすあ、とーゆびを

[illegible]
らのあるつきのきようしてゆるゆるのうけをゆりしば。
るしきまかろくあうゆるるのうれーさて。
報恩衍徒のとびらもひらくる視師の急獲
ようつう七きうごふうアーきうごふう慶大法急乃
利益をゆるゆるものあぶもきあ
いのちよさらじのきのようびよるきあうハ
まく、ふかよさらせくふうのををれうあ。
あ三第一ようでらふ文形ゆーうでゆ日ゆどれてば。

あるひいらうみ月をかとち。新居つきてる
くるこうもうがやいさうしおらう母のあしおとよ
世 コレ芝くさ助。ごふうをいくぢまや 丑 ハイ。とふよ
そうのけうこ。アがて。ごふうをのみこまい。おつうきん。あうぐらふごぞうま
す 世 ずいぶんこのうくとるよきんぢんし
なと
もとの下百しうらあみを。ことる流のこちの
夢ひ寝よ打らとあこ帝ハ。何夢いんこの日
ようぎり。をきあこうぐまこず。えり
ぶよあを引うれこ。ちるこうぐ紙ちるく
よえきん坂をもうちるこく。
丑 打きんあこきんようふ 世 おいで為ちいこく。
おいらんうこあもやこ。ちぐらこくきこいやこうトこずあ
いこぎゆく。ちぐらこくありこくさきこ川ハ行こあこ帝ぐ
きこうしるをきこくこひこくこうのきこくこおいこぐきまり。 暁 丑
ぐここをあけこれよあんしるぐふおり
あれば。ちこうぐかをこえあこうこあこうおりから。あこきんこ丑きまう
きんハぐあぐこあぐこいすい 松 おいらんこぐきんこ
やこうこみぐこね。ここきまこうきんハきのあのやこす
でこうここきこハぐこぶこうこいぐんぐこきこぐこ

ぎれげきるとゝゆゝ。それよついちやア
おいらんゝいつもゝのねがひあり申すゝでゝ
うゝゝゝゝゝんゝゝんし 咲 ゝとゝきゝゝゝゝさんのゝゝゝゝ
ゝゝらゝゝゝゝゝ

んどのあくこそくゆくすぐにさらせことじとりつれるこれるい
のすそとあみすしくさてきるまわしさのるときやうがすも
わこそゆがくるそらごくまこころくいけりきちばこ家のぐりとさ
どもあわげなくゆくあそまこころいのる
ありやけのうしろ
がみこそひられぬらん。宝コレあこそさんへらめくさんいかくす
のやうまこるはをいくらんすすらいいらんがそら
をこそらんくくくを又いくずとこれしんことさ
そらとたそあが脊とそふふもちつもかやふ
ふいねへのさ。元アにまくあんるまといくらん
す。松さんへなどそのやうまだまてうんをく
ちつくはでもおあんらんくく

元おんがけあそこそまやうおるるよらのるぐひさくく
まづらいてやもあとくくしわはたももえよう鼻めるる
おくれあるまみどりのかみもそろぐくくくく
ひくくくくはくくずめくく。イヤ。これいこそ宝
ヲヤトまづうまてくりやい又おめくさんへひさ

しくじびゆ〜ものでいらっしゃるでござ
りやすぞ 宣 そこもといつもよりくどく
いやアおられぬぞ。そぢらもいるゆくよぢふ
もふもいろ〜あらぬうら。やめてこらくさくな
らば。すこし〜ハうつもさまうくちまで
そろ〜かどよのつこ。よろ〜こゝやであろう
てそこ〜 元 さいひ拍さんがおいでなさり
やし〜 宣 アそりやアどうい。あのあるよもれがこさ
るとそこもいぜ。そしてこらもうとおいらんをこく

よびぞ〜てくりやい 元 ハイ 宣 そこもこさけがあやし
みなぐらぐこれハあめうや
うかや。爰のうちあらきあよ
ぐしとそこもあそこぜこそう 宣 イヤ
ハ門ハおるのうのまうれきよおもちさぎ
ものをまそだ。そこうんこすぐつさ。ゆと
うゆをそこうすぞこそう。ふうハをまつれを
こ。人のこぬまをこう呼ばつ。よを行れこぞ
ぞ。ようよ

宣 そこもこぶ〜〜〜

なるようすぐるあくまでもあまりのあくさ
きよきようをしーのびぢくちまでうごか
のんくさまそのくるまぐのくるーさいぶへ
やんくふくらつて図おこそれぐもようふおいで
ありうしーつくやうちあくさんがおつち
しいやうきこいやうそのゆくりさうぐこさへ
しくうして今夜ぢうずおめよかくいす。
モウ〳〵わんよおいしてもおさいしてもさつぢ
うつてあもあるとまずそうてうあさいぢわで

あぐんす。あんまりあんぐもおいしくうら。
もしやぐおうちあんくふうら。おこ三饗でも
きうふうや。まくいつぐいくまんぢくしおめく
さんとあをりうれこまんづの門倉をやもく
と。おうくうちのの寂光寺へ図をれるぐよ
ようでおりくくれこいい図きんぐつでおくく
ぐくしいやう。こうおぐもつくぐくおんへさし
くくくくーくやう。おめくさんがよくあつくおぢ
あさいくくくすいくくくすこれをさきくちあし

てらうそてあれまが性してのとたのみ
よしてあるいしさごんアあるよういすふ
ものいげるふあぎるいすらいけそんがう
きくしくさつちアさるしがでさいせん
さどおそびれまんしくろう あしでも
きすくあげいせう 注 そびれさどぎや
ちく 咲 そんおうアあすみでもおきいし
そう ちつとはあきもやすまいせう ぎど
ねさやくようるけくおさもんすやうよし

そうあります 注 うれしいよでめくあれをそれ
わどそよさんどつよしてくれるのハさんてもちつれ
ハさるくどよごしあれからそのさんどうハ
ぐらとまれば 咲 ヲヤ ぐんよあうぐるよあぎるいす 注 ドリヤ
てあくのむねのさんどけハ 咲 ヲヤ あれもさあう
こハるれどもうくしがこうのさんしんハ
神しくるけのそのかハ 注 そうこせこそ よく
ちれをもよハしくさしのうちようう
かるる あるがる 咲 うくがる

しとそもぞうしいせう。あんまう実の過ぎし
とかう。こんおもよあていーと。マアそのゆうる
せうぶしとも。ちがりよいけくちきりせちへし。
わさんとあとさんがきつけいせう 注 見さげて
てくるふじつのまんてひうらがらづろうよいあ
男が。まんとでできてよきちゃんが。おいばく
ちらのくん とぶとをあげて 送 ぞわともしく
ぶ うくんとまれば
りさんセおめくさんよこうきれりや。つてしゃ
ほんまうでちがいます。それもこうすが

でさいせんあら。ぞわするものでちがいます。
そしてつてしがまんじつは。やまがらる
つくいせんくとをあるもふうむこと。
そびようてみそうぐこをきかければ。注 そうれと
をきかうとあさく。コリヤ。ぞわするのぞさやまる
ものマアまどしづめくよくまれて
よハふいたりがある 図 伝もさうずとよか
ありいすそこをおしてくさんセあるん
してハおめくさんよてしがしつうそいせ
ん。 注 まふうくまうあれがいう

ゆきをいてくれやまんぼうまでまんどう
をつくすくとくくとくとくと

てゝ[illegible]ゝとまゝ[illegible]ゝしてすゝのうら月と照石乃
むけごゝもゝのゝごゝよゝ姿のうゝさゝしをゝゝゝゝゝ
うゝさゝゝゝゝゝ

ソウよう やんぐ あの こ 伸 せん 咲 ぎ ね え 志
のびごまで おざいます 笑 うさいくの むつ
ごども ついきぬくの とれ れ ま た 笑 も ゆ 夜 が
あけ ら ら 咲 十二 まぐ ハッ ろぐ おぐ いせ
う 笑 ま よ ら ら ら み し ま の き も 咲 仙 う
ゆ を ひ ら し ら 方 よ つ ま れ い す ま ま う
さん 笑 い ど ま よ 岩 こ り ぐ ふ し お ど れ
ひ く 咲 人 の ひ く ま ハ ら ふ し ぐ お も の ぐ
おざいます おめ く さ と ロ ま ア さ し

ふ く く ま つ く の ハ 笑 ま よ か み の ぶ の き
あ ま せ と ま ま お ぐ く 咲 ロ ま し や ま ろ て い の う
おざいます ど 面 さ ん や おそ し さ ん の お な
う ぐ ち で も あ り い せ ま ま ふ ど ん あ り ま く
おぐみます 笑 ま ま ま ま り の き や み せ ん も
いよよ す む ら ら す ん ぐ ま ら 口 ぎ や み せ ん で
ま つ ま ま ま る 尾 を ま ま く ま ま ふ ま ま ま せ て ん
か 咲 ヨ ヤ ま と ま ま ま ま ん ッ り や る せ ま る 尾 ハ 部
で ひ ら れ い せ ん 笑 ア ま ま ま い ど モ ウ 咲 ま ま ま さ

りいしく 笑 いうをもあ
くさきをこのむらゆを一ワきい 咲 ドもつく
さいせう・たまく星の遊ばうとおくバモウ
ぞうせうのう 笑 サアきをくゆをもにてく
てられあへう・まばらくちうて咲門ハ咲 くきあそゆをんでる 咲 くきあうさん
湯をもつてさいしうさうら・おまをおあげ金ん
し・をまあうさんへ・アレ・モウあんぐ・ぞうぐ・ふ
まくぐざきのだいちざをくきあきさんへコンぞふ
あさういしく・ねうあんへうへうとうぐふさん
ぞんしくあし

れば
ワワとあどろく声をうれうあうう 者ねる女 じょふ
早 しんそう 彩造 うむうやうみちをきぞめうていそぐ
あんちうきてえれば 咲 川 ふふ 後 もきぞ 床 の とこ
そぞよ・ふをうしふいうく・ふあれ 拾 いる・うとえう
よりあきこの女郎・さあ・うひもみふをもず・
女房いいうぐどうむぐふ 彩 ふうら・
笑 ふおうれそハコレ・ちうるさ
うるむうぐどう
ぐきさる 笑 サア らんぐきさいしく 笑 ドと一ト上にうろ

咲 ほうと
あきだす

咲 ぐかぐよ
あきうはく おいらん〳〵 十二月

すいきの
しこうり 大ゼい おいらん〳〵 こゑをきつておきう

いし 咲 アイ 咲 これ おんでおぎりいしこと〳〵 咲 あのね

とぢうりうらいと。
ちぶ〳〵あらぶふりきかる 立 おんでおぎりいしこと〳〵いつて

おきうもおんし 咲 らもきやきうさんのゆうれいぶ。

きおんし〳〵こと 大 ゆめ 夢でおぎんやきう 咲 イざしこどれ

をつんおんし〳〵 ふらんをぐんとおしまされば。 大 ソリヤあの
こうりいときみのあぶ一ぢ

ぶ〳〵いうるもで。おぎりいすい〳〵。

こうよ 咲 ハらもし〳〵きるすぬ 鶴 しぎう の ワけみち。

四十七

きさぶ〳〵ものハあるぶのあさゆうて 他 とうち

〳〵きと。人用もきぶびうとぶんのうちであれ

ある

咲 モウ〳〵 ハりをくるこさあゆうさん〳〵ぶ〳〵いやう。

つ〳〵しぶりうとおぜうこのやうよ。のこ〳〵おんし

さつれおりふおす。いまさうワて〳〵いさおぐ

らい〳〵。このあをを何よやきうぶ〳〵のあふほをあびと。

ぶををえんせず 咲 ぶれんとす 咲 ぶるハふをあびく〳〵 コレおいらん〳〵その方

ぐおめくの方のまうよ。ちるうらぶ〳〵やアありや

すめいうりしろものどこゝれ
きゝん。マア そのひもをひつゝくんか 九 アイおい
らんゝ家をたづめゝ ちゝゝ ものし。ミウ ぞの
よゝゝ出(ウヤし)んぐゝゝ。かゝらぬゆでちぐういす。
河をふつぱり見えゝゝ。お出ゆんをゞよゝ
ちぐりいす。くゝきゝゝ 留(おとこ)しやちぐ
りいすまくし。うゝゝゝ(かけゝゝゝ)ハ 拾八 おいらんハゝゝゝゝゝ
ゝゝおいらんゝ 十 くゝゝゝゝゝんのゆゝれいが。
きゝゝりいゝゝゝ 拾九 わんおかエ。ゝんちらゝゝ

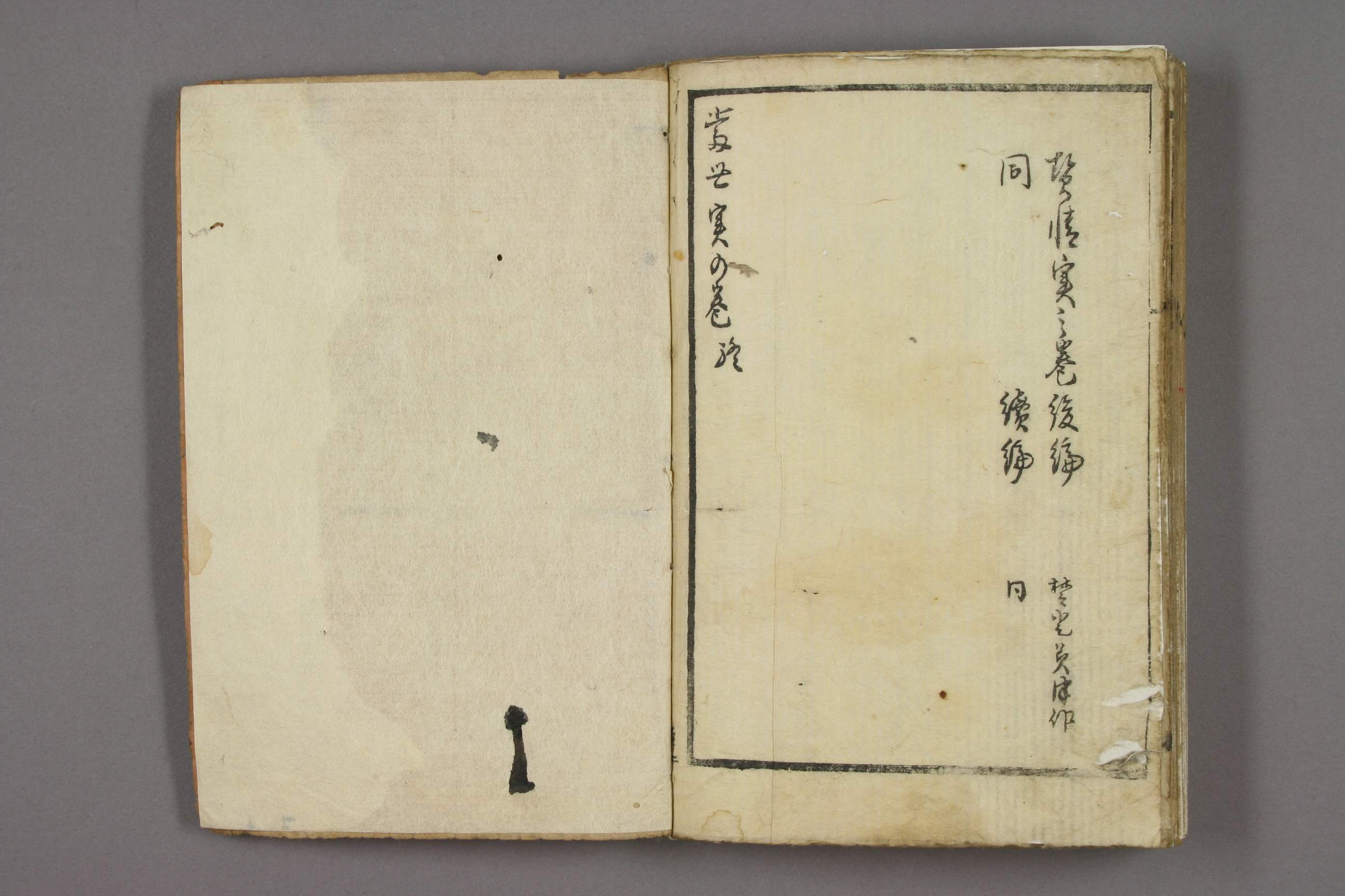
ゝ今夜死ぐよちげいいねく。おりゝバゝゝ
くゝゝきゝゝきんい。十九のもを一(いちご)ぜゝゝゝゝの世(よ)
をゝんすゝゝ死こぐゝエ。とゝもよあゝれ アゝぐゝる
もんぐ。いゝゝ悔(くや)ゝもゆゝゝゝ(のゝゝゝゝりしが)ぬい者(むぎ)のたさい
ゝゝゝゝの大一ぜハ。ゝゝゝ(むぎ)ぐゝゝやすひ
ぐぐちてあゝゆきゝゝ。マアあをゝいゝてまぎ
れゝんすぐゝ。 十一 ソリヤわんよゝふおぐんやゝ。
サア おいらんゝゝゝりぐゝゝきゝゝお出ゝんゝし。
と大ぜいよりゝゝゝられあゝよゝと車のようゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝをゝでうちあゝひちゝくゝと。ゝゝりぐゝきの内へ

今までハさしもほどなきふ大一尺にワかるきと
きげまれバあまくこの世界もきやうさめて見つあ
て居るおこそあれきりのようにすあちやうし
[三] おいらんしおさてるんしおぜそのやうう
おるきなんすまふぞふするもんぞおざり
いす [あちやう] あめもりそらの泣くハ [受] 生花
のなハぜひあられどこれがあるずよいらまう
ら [うら] ものきげくとあるくよこづぶくく

てやるなるぞく [咲] きくあるくあるくかるくおとこう
りられるもうくしやぞうりりんぐやら [うり]
らのせうらきく流の男 [咲] 老生おぜうの習い
しハ主三ぞうどやまでくくまあうさんが [みげ]
きりうきれつきれつあいのおさいのか
りりめの [咲] おもしばひうりのくまあう
きん今こなのぞうきもぞしてえりやみん
おりくしか男えうらう [うり] つるのやうやや
おりくのやみ [咲] そのおやの男みるつくるら

行 まゆの形のさうしまよう 咲 さど鬱
くいるんせうしとかすべかふと
よくなるべかはいる
まさしくこすせをきりまてし 色手ゑ うるはし
よまういるさまこゑ一ゑのいろむくのゑ
ぎをそろでよふ若し みどりの髪はこぐ鬱
家もれてハ風彩柳のかみをけづりあるあくおど
ろよおしるもの伽はぶらあ
咲 きうゑ ゑぬきの和ゑ ゑるゑ
そとゑゆうさんよまづくぬゑの ゑうしやよ

しかのかもせよゑ人ゑ三度あふゑのうれ
しきよとおもふ しえれのふゑうしやを婦
さんまるさしくゑんぶを出ゑんしこが 行
こいしゆうしのひと多をとわれハまんむし
ゑすれずハ 咲 あまりのこゑあきれをあくねをろう
うちゑまれをまつぐらふをゑあいる
行 ゑうぬばるうしいふことう
しるもゑうぬも伽ら 幽霊ろをのあゑしをと
ちらさんしゑのむりく 後編よ思りれバおバ
ちうこゑよまうあく



諸流實之卷後編

同　續編

同　楚堂吳庠仰

蒙巡實の卷終

[redacted]